



大錦画日々新聞紙
第八号

明治八年身二月の頃ありし心身を

北詰小丹波屋和助の娘といふやうに今年十七歳の

春風を吹りうきうきのあそびをなす所あり

事久知らぬとも細き心のをりて糸

思ひ切りあん肥後とて入水

なせしはまが隣家やも未吉が

娘アとてその親この名

やも似もつて是も本年

十八才の頃と糸とハあそび

うきうきと流の川端より

身を投捨てて二人が死骸は木津川の

高助島わたりてを捜しつゝ埋葬の

海なりしがまぬぬの双方の親心ア重き

命を軽々と捨てる不孝の罪トヤソん

大水堂 行舟結

小佐政二代
日見信重

官製受板